



渡邊 雅史  
ブラックロック・ジャパン株式会社  
iシェアーズ事業部  
ストラテジスト

ETFは世界中で約5000本が上場され、機関投資家・個人投資家の双方に活用されており、その規模は2.5兆ドル（約250兆円）を超えています。

ETFは株式市場で株式のように取引される一方で、上場「投資信託」であり、投資信託としての資金の出入りが日々発生\*\*しています。世界中で様々な投資家が利用しているETFの資金流入は、世界の投資家の動向を探る上でも有用な情報になると考えられます。

当レポートでは、世界のETFの資金流入の状況をまとめ、それらから見えてくる世界の投資家動向についてご紹介していきます。

\*ETF(Exchange Traded Fund)のほか、ETN(Exchange Traded Note)、ETC(Exchange Traded Commodity)、ETI(Exchange Traded Instrument)等の上場金融商品を含みます。

\*\*ETF独自の「設定／交換」と呼ばれる現物バスケットと受益権の受け渡しによりETFへの資金流入が発生します。（すべてのETFが現物での設定／交換を行うわけではありません）

## 2014年10月のETF資金流入 ～目立った米国株ETFと債券ETFへの流入～

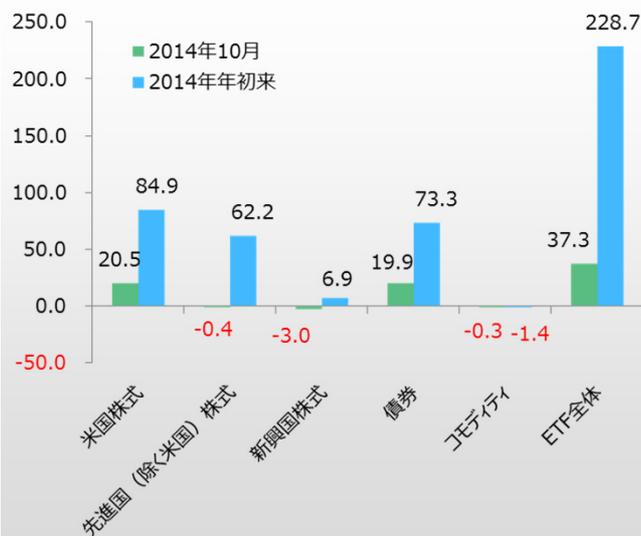
2014年10月の世界のETFへの資金流入は、373億ドル（約4.2兆円）の流入となりました。

10月は株式市場が大きく振幅したなかで、債券にも株式とほぼ同等の約200億ドルの流入がありました。幅広いセクターの債券のETFへ資金流入があり、中でもハイイールド債券への資金の動きは目立ちました。連邦制度準備理事会（Fed）の金利引き上げの時期をめぐる思惑から、株式市場と同様にハイイールド債券の価格もかなり調整しましたが、その後のFOMCで低金利の継続と経済環境の好調が確認されると、資金流入と共に価格も戻す形となりました。

先進国株式のETFは、主に米国の大型株を中心に資金流入となりました。また、日本株のETFには、GPIFと日銀の動きがみられた最終週だけで32億ドルの流入が見られました。その一方で、ECBがなかなか実行力のある政策を打ち出せない中で、欧州株のETFは19億ドルの流出となり、4ヶ月連続の流出となっています。

新興国株式については、新興国全体に投資するETFや中国株のETFからの流出が目立ちました。

【世界のETFの資金流入（十億ドル）】



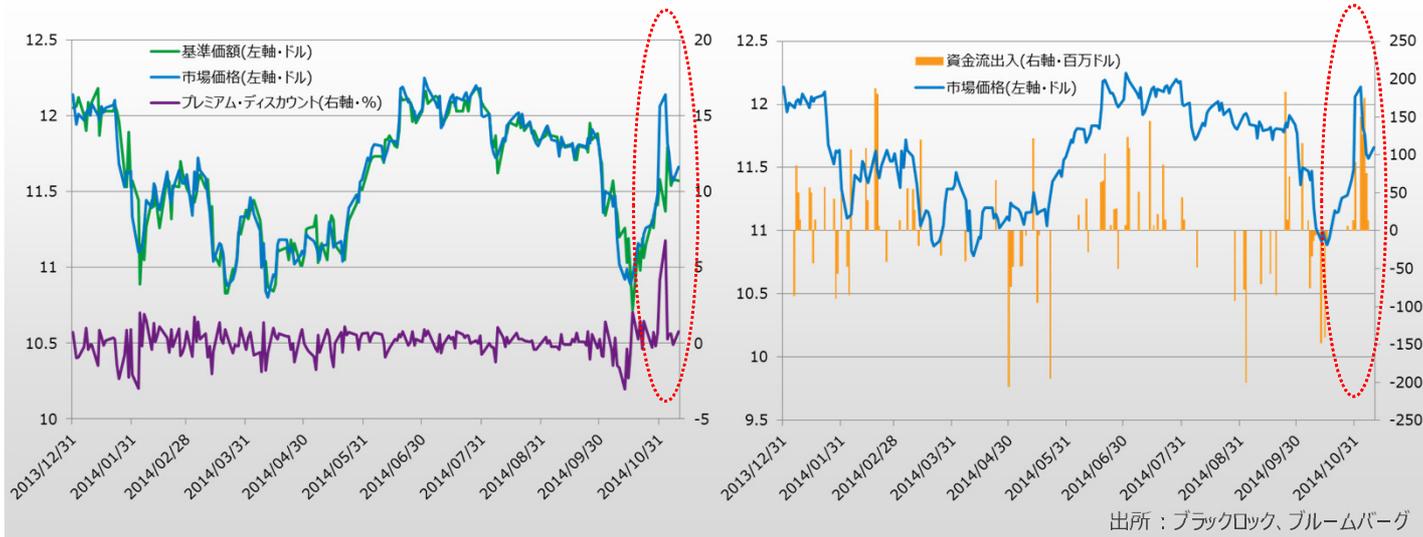
出所：ETP Landscape Oct 2014, BlackRock

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。

## ETFから見る世界の投資家動向 ～米国上場日本株ETFの動き～

## 【EWJ(iシェアーズ MSCI ジャパン ETF)の基準価額、市場価格、プレミアム・ディスカウント\*と資金流出入】

\*プレミアム・ディスカウント = ETFの市場価格と基準価額の差のこと。市場価格の方が高い場合をプレミアム、低い場合をディスカウントという。



市場に驚きを与えた10月31日の日銀の追加金融緩和の発表は、日本株を大きく上昇させました。このニュースはグローバルな投資家にも日本株への投資を促しました。10月末から11月初にかけて、米国に上場しているETFの市場価格は大きく上昇しました。しかもこのとき、発表があった翌営業日の11月3日は日本の祝日だったため、翌4日に日本市場が開くまでに日本株を買うのであれば、米国上場の日本株ETFは有力な選択肢であったと考えられます。そのため、EWJ(iシェアーズ MSCI ジャパン ETF)の出来高は1800億円にも達しました。基準価額が日本時間の10月31日で止まっているなか、米国市場でETFが買われたため、この間のプレミアム（市場価格と基準価額の乖離）は非常に大きくなりましたが、この分はまさに日本が休みの間に形成された日本株の価格だったと考えることが出来ます（ETFの価格発見機能）。このプレミアムは日本市場が開いた11月4日には解消しています。また、この間はETFへの資金流出入も連日の流入となっており、日本株投資が日本市場が休みの間にも大きなテーマになっていた様子が伺えます。

**ETFの主な投資リスクについて**

ETFは投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。連動を目標とする指数、組入れ有価証券の価格変動、金利及び外国為替の変動等の要因によりETFの価格は変動することから、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

ETFの価格が変動する要因や変動の大きさは、各商品及び各商品が連動を目標とする指数等により異なります。優先株は金利上昇等により価値が減少する場合があります。また配当の支払いは保証されていません。満期到来、償還、繰上げ償還、転換などによってファンドの利回りの低下を招く場合があります。特定の地域や分野に特化した投資では、一般に変動が大きくなります。不動産投資信託（REIT）への投資は経済状況の変化や信用リスク、金利変動の影響を受けます。

**手数料、費用等について**

【売買時の手数料】当ETFを売買する際の手数料は取扱い金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。【保有時の費用】当ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。保有時の費用の率（総経費率）は個別のETF/JDR毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱い金融商品取引業者（証券会社）にてご確認ください。またiシェアーズのウェブサイト（<http://www.blackrock.com/jp/ishares>）にて当ETFに関する情報を開示しております。

iShares®  
by BLACKROCK®

ブラックロック・ジャパン株式会社

iシェアーズ事業部 TEL 03-6703-4110（部代表） [www.blackrock.com/jp/ishares](http://www.blackrock.com/jp/ishares)  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第375号  
加入協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。